血液内科を受診している患者さんへ

当科では，下記の研究を実施しています。この研究は，愛知医科大学医学部倫理委員会において，ヘルシンキ宣言の趣旨に添い，人を対象とする医学系研究に関する倫理指針，ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し，医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は，対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではありませんが、研究内容の情報を公開することが求められているものです。もし，この研究に関するお問い合わせなどありましたら，以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	健康維持・増進を支える次世代先制地域医療：炎症評価コホート研究 一般人口における thromboinflammation（血栓炎症）の解明を目指して
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長　道勇　学
担当科等	血液内科
研究責任者	（職名）教授（氏名）中山享之
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	非該当
研究の意義・目的	一般人口において血栓症や出血をきたしやすい人が、どれくらい存在するかを調べます。これにより疾病の予防や早期治療に役立ちます。
対象となる患者さん	「健康維持増進を支える次世代先制地域医療：炎症評価コホート研究」（承認番号 2019-154)に参加した方
研究の方法	本研究では、一般人口における VWF 活性（リストセチンコファクター活性)、プロテイン C、プロテイン S、アンチトロンビン III 活性を測定します。また VWF 活性は、ABO 血液型によって影響を受けるため血漿もしくは血清を用いたウラ検査により同定します。次にどのような検査値異常（基礎疾患）が存在すると VWF 活性の上昇（＝内皮障害）が認められるかを統計学的に検証します。また逆に VWF のヘテロ欠乏症（出血傾向を呈する）は、一般人口において 0.1～1%程度存在していると推定されているが、本邦で大規模に調査されたことはありません。よって VWF のヘテロ欠乏症の頻度も副次的に検証します。また、抗凝固因子であるプロテイン C、プロテイン S、アンチトロンビン III 活性のヘテロ欠乏症の数百人に 1 人程度の割合で存在するとされるが、詳細は不明です。よってその頻度も明らかにします。研究方法等に関する資料の閲覧を希望される場合は、以下の問合せ先までご連絡ください。
研究期間	倫理審査承認日　～　2029 年 3 月 31 日
研究に用いる試料・情報	試料：血漿 情報：健康診断結果
外部への試料・情報の提供	なし

問い合わせ先	愛知医科大学病院 輸血・中央臨床検査部 担当者：（職名）教授　（氏名）中山享之 〒480-1195　愛知県長久手市岩作雁又１番地１ 電話 0561-62-3311（内線 36212）